

1学期を振り返る

令和8年度の一学期の教育活動が7月17日(金)をもって終わります。まだ、少し先ですが、ここで、一学期を振り返ってみたいと思います。

【よく考える子を目指して】

この1学期は、各学年・学級とも、基礎・基本の学習を大切にし、復習等の取組を入れていながら、子供たちの出番を意識した授業や学習活動に取り組みました。これまでの本校の子供たちのアンケートからも、勉強が分からない、面白くないといった声もあり、先ずは、今の学年より前の学習を振り返ることを大切にしながら、取り組むことにしました。基礎や基本の学習内容は、身に付けなければならない力ですが、地道で時間のかかるところです。面白みに欠けるところもあるかと思います。

子供たち一人一人にとって、学習が楽しくなるためには、今の学年の学習も大切ですが、これまでの学年での学習内容を振り返って、少しでも分かるようになることや思い出すことなどを授業の中に取り入れて学習が分かるようにしていくことが大切です。まだまだ、時間はかかりますが、粘り強く取り組むことと、子供たちの出番を意識して作ることで授業や学習活動が楽しくなるように、子供たちと一緒に努力してまいります。



【なかよく助け合う子を目指して】

この1学期の変化で、一番大きいところは、始業式や全校朝会、集会、学習時の挨拶等での子供たちの「気持ちの切り替え」の姿があることです。昨年度も、「気持ちを切り替えましょう。」と様々な場面で子供たちに伝えてきたことと、その姿や行動を褒めたり、価値付けたりしたこと等の取組が少しずつ形となって表れてきているように思います。

本校の子供たちは、その場面場面での行動や、どういう姿で接するか、どういう言葉を使うか等、学校生活や日常生活でのスキルを身に付けていくことが大切に思います。



あいさつにおいても、声を掛けることで返事を返したり、礼をしたりする子供が増えています。自分からあいさつする子供も増えました。日によって、その程度は違いますが、やはり意識されたことは間違いのないと思います。これからも、あいさつとふわふわ言葉や優しい行動など、人間生活に大切なコミュニケーションのスキルを学校全体で高めていきたいと思います。

【元気でたくましい子を目指して】

この目標は、体力的な意味合いが強いように思いますが、真に「元気」でいることは、心と身体が連動していることで、成り立つように思っています。例えば、誰かに褒められたとします。そうすると、心が嬉しくなると同時に、顔の筋肉が動き、表情が明るくなり、身体を使った行動が生き生きとしてきます。逆の場合もそうですが、良くないことがあると、心が苦しくなったり、悲しくなったりして、行動がうまくできなくなります。

元気でたくましい子を目指すために、心を育てることは身体を育てることでもあると捉え、たてわり班による関わりや、学級同士の関わり、学年同士の関わり、六サポや地域の皆様との関わりなど、心と身体を同時に使いながら、元気でたくましい子になってほしいと様々な計画し、実践しています。



【振り返りのまとめ】

1学期のこの4ヶ月間の取組により、少しずつではありますが、また、個人差はありますが、変化や変容、成長が図られています。今年度のこの1年間を通して、目指している児童の姿や行動に繋がっていくようにすることや、子供たちと教職員が前向きに、主体的に、教育活動を進めていけるように、現在の取組を引き続き推進していきたいと思います。保護者の皆様、地域の皆様の更なるご理解とご協力をお願いいたします。

学校運営協議会の委員の増員について

昨年度より、コミュニティ・スクールの柱である学校運営協議会を設置し、学校運営を協働して行ってきましたが、昨年度、委員でありました、城所 久恵 様が昨年度で退任をされました。これまで、学校を支えていただき、感謝を申し上げますと共に、この場にて改めて、退任されましたことをお知らせし、これまでのご貢献に深く敬意を表します。大変にありがとうございました。また、これからも六小のことをご支援いただけますようお願いいたします。

以上のことから、今年度の学校運営協議会の委員が1名減り、7名体制となっておりますが、現在の委員の方から「増員を」との声をいただきましたので、検討してまいりました。

そこで、この7月より、2名の方を委員として呼び出すことといたしました。

1名は、矢川保育園 園長 岩井 久美子 様、もう1名は、向陽保育園 園長 澤井 智也 様です。2名の方を加えて、9名体制で改めてスタートしてまいります。

学校運営協議会の委員の皆様には、紙面を介しての事後報告となってしまう、大変に申し訳ありません。何卒、ご理解の程、よろしくお願いいたします。

【校長のつぶやき】

一流の人との出会いや一流のものとの出会いは、その人の心や身体に大きな影響を与えることがあります。私にとっては、やはり世界的にも有名な、3大テノールのルチアーノ・パヴァロッティというオペラ歌手に大きく影響されました。

パヴァロッティは、20世紀後半から21世紀にかけて世界で人気を博しました。既に亡くなっていますが、今も大変に人気のある歌手です。3大テノールとして海外公演もたくさん行い、多くの聴衆を魅了しました。特に有名であり、コンサートでは必ず歌われる曲で、アンコールでもよく歌われる曲が、オペラ「トゥーランドット」のアリア「誰も寝てはならぬ」という曲です。

スケートの荒川静香さんがトリノオリンピックで金メダルを取った時に使われた曲ですので、そういう意味でよく知っている方も多いと思います。この曲の最後のところでの高音のハイトーンボイスは、誰でも簡単に出来るものではありません。多くのテノール歌手がこの曲を歌っていますが、パヴァロッティほど、無理のない声の出し方で平然と歌い上げる姿と、エンディングにおける強い声でのロングトーンは、聞いている人を感動させずにはいられない程です。

私も、テノールとして歌っていただけで憧れていましたし、風貌と音楽家としてのセンスにずっと魅了され続けています。音楽の楽しさを感じさせてくれた忘れられない「歌手」です。